

献呈のごとば

川崎信文先生は、平成二九年三月末日をもって広島大学をご退職されました。川崎先生は昭和五八年四月、政経学部時代の余韻がまだ色濃く残る広島大学法学部に助教として着任されて以来、三四年の長きにわたり、本学部の教育、研究にたずさわり、広島大学、大学院社会科学研究所、そして法学部に多大な貢献をされました。

教育面では、行政学をご担当され、その自由闊達なお人柄と広い学識を慕う大勢の学生を指導し、法学部、大学院法学研究所、同社会科学研究所国際社会論専攻、同法政システム専攻において、数多くの優秀な人材を社会の各方面に送り出してこられました。

研究面では、フランス地方制度改革の分析を中心に同国の地方政治・行政の研究に邁進され、その成果の一部は平成二年の第一六回藤田賞受賞、在外研究で滞在していたボルドー大学から研究者を招聘して開催された平成一九年の「地方分権と道州制に関する日仏シンポジウム」に結実いたしました。

学内行政においては、法学部夜間部主事として夜間開講の大学教育における様々な問題に対処してこれらたことを皮切りに、国立大学法人化とともに改組された新制社会科学研究所の初代研究科長として、その後は平和科学研究センター長、学生支援担当の副学長、広島大学キャリアセンター長として、日夜激務をこなして活躍されてきたことは周知の通りです。

川崎先生の永年にわたる多大なご功績に感謝の意を表し、この退職記念号を献呈させていただきます。
最後に、川崎先生のご健康と今後ますますのご発展を祈念いたします。

平成三十年一月吉日

広島大学法学会会長 江頭 大蔵